

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

医学部保健学科

部局長名：

廣畑 聡

学科長・保健学研究科長

目標・取組	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p style="text-align: center;">教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>①教務委員会を中心に、「岡山大学における教育の内部質保証に関する方針・手順」に基づく内部質保証サイクルを恒常化させるための計画を立案し実施する。</p>	<p>①教務委員会で「岡山大学における教育の内部質保証に関する方針・手順」に基づく内部質保証サイクルを恒常化させ、教授会においてPDCAサイクルを回す内部質保証制度を構築した。</p>
<p>②課題意識を持った優秀な入学生を選抜するために、高等学校との意見交換や他大学での先行事例調査や入学者アンケートなどをおこない、入学者選抜方法の改善をさらに進める。</p>	<p>②近藤UAAと連携して高等学校との意見交換や他大学での先行事例調査を積極的におこない、入学者アンケートなどの結果をもとに入学者選抜方法を改革した結果、志願者の倍率が全専攻において飛躍的に増加した。</p>
<p>③教務委員会と入試委員会を中心に2024年度公開をめざして新たな3ポリシーの検討を開始する。</p>	<p>③教務委員会と入試委員会を中心に2024年度公開をめざして新たな3ポリシーへと変更した。</p>
<p>④医療系の複数学部がシームレスに連携して実施する探求型実践型科目として、多職種連携講義の2024-2025年度以降の開始をめざして検討を開始する。</p>	<p>④医学科、歯学部、薬学部とワーキンググループを形成し、毎月議論をかさねながら、多職種連携講義を2022年度に実施した(医学科116名、保健学科55名出席)。学生アンケートを実施してステークホルダーの意見も散り入れつつ、さらに2023年度での拡充に向けて既に着手しており、2024年度には新しいコア・カリキュラムプログラム実施に向けて率先して多職種連携教育を進めている。</p>
<p>②研究領域</p>	<p style="text-align: center;">研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>(再掲: 保健学研究科 ②研究領域)</p>	<p>保健学研究科の箇所に記載</p>
<p>①研究開発・推進委員会において、IRを活用した研究力の評価と分析をおこない、外部資金獲得へ向けての戦略をたてて、実施する。科研費の獲得数の増加のため、予備添削を組織的に行う。科研費申請率を高めるように働きかける。</p>	<p>①病院研究推進課から、各年度の科研費申請・採択結果の情報を得て、各分野ごとの採択状況を踏まえ、重点的に支援すべき領域を定めて、実績のある研究者との共同申請による新たな研究課題の提案や申請書の添削などをおこなった。</p>
<p>②学内外の共同研究を促進するため、ブレインストーミングなどのシンポジウムに積極的に参加する。Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について構成員に周知する。国内外からの客員研究員などの受入を実施して、海外研究機関との連携を検討し、国際共同研究を展開するための基盤を構築する。</p>	<p>②ブレインストーミングに参加するとともに、教員連絡会などでTop10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について部局連絡会の資料を示して、教員の意識改革を促した。また、タイ国シーマハサラカム看護大学やインドネシア・ハサヌディン大学との国際交流を実施、米国ウエイン州立大学の現地視察など新たな連携を展開して、国際共同研究のための基盤を構築した。</p>
<p>③部局のホームページにOUフェロシップなどの紹介ページへのリンクをはることで、学生の認知度を高め、大学院進学への意欲向上を図る</p>	<p>③研究科のホームページを全面改訂し、OUフェロシップを紹介するリンクを貼るなど、大学院博士後期課程への進学を促す仕組みを実施した。またpost O-NECUSプログラムも積極的に推進した結果、最終的に定員充足できた。</p>
<p>④若手教員や大学院生の研究をサポートする保健学研究科独自の若手支援パッケージを計画し、若手教員や大学院生の研究を推進する。</p>	<p>④保健学研究科独自の若手支援パッケージを立案し、研究担当理事戦略経費に採択され、若手PIの環境整備および国際研究推進に向けての研究科による支援をおこなった。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p style="text-align: center;">社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>①コロナウイルス感染拡大下での国内外の移動が困難な状況であるが、持続可能な国際化を推進するために、国際交流WGで議論し、海外の教育機関、医療・保健機関とのDXを利用した相互交流を実施する。</p>	<p>①持続可能な国際交流を実現するため、今年度もタイ国シーマハサラカム看護大学との学生・教員交流はオンラインで行った。さらに新たにインドネシア・ハサヌディン大学とのチーム医療演習では、保健学科1年生がインドネシア人学生とともにオンラインで共同学習をおこない、英語での発表を行った。さらに、米国ウエイン州立大学との大学間協定を更新するために、現地を視察し、公衆衛生などあらたな領域での交流を開拓した。</p>
<p>②ウイズコロナ時代に対応した新たなデジタル等を活用した教育プログラムを実施し、地域や国際社会で中核となって活躍する優れた医療人の育成を図る。</p>	<p>②今年度は大学の方針で対面式授業を主体としつつ、遠隔講義システムを基礎棟に新たに設置し、moodleやStream、あるいはTeamsなどのデジタルを活用した教育プログラムを実施した。</p>
<p>④管理運営領域</p>	<p style="text-align: center;">管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>(再掲: 保健学研究科 ④管理運営領域)</p>	<p>保健学研究科の箇所に記載</p>
<p>①教員の勤務状況を調査確認し、会議をオンライン化するなど研究時間確保に必要な取組を実施する。</p>	<p>①教授会や運営会議をはじめ、国際WGなど各委員会をオンライン開催として、研究時間確保のため会議を短時間で終了させた結果、長時間労働(100時間超)の教員がゼロになった。</p>
<p>②保健学科棟改修計画においてイノベーションコモンズを新たに設置するための検討をおこなう。</p>	<p>②第4期中期計画にある、イノベーションコモンズを鹿田地区に新たに設置するため、改修WGを開いて、研究科として地域と共創するための構想を作り上げた。</p>
<p>③さらに、LGBTQを含む多様な利用者へ配慮した新たな保健学科棟ではDX学習にも対応したWifi環境の整備を計画する。</p>	<p>③改修前であっても学生の学ぶ場所や時間を確保するために、講義室やリフレッシュコーナーなどを自習スペースとして学生に開放した。さらに改修計画では、学生が主体的に学ぶことのできるスペースを確保するとともに、LGBTQを含む多様な利用者へ配慮した配置とした。</p>
<p>④研究不正に対する教員への意識啓発をおこなうとともにE-learning受講率を高める</p>	<p>④研究倫理や情報セキュリティに関する各教員のe-learning受講を促した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。